

氏名	高橋 学
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第9号
学位授与の日付	昭和36年7月18日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	流行性肝炎ウイルス感染過程に及ぼす諸種抽出物質の影響について
論文審査委員	教授 村上 栄 教授 小坂 淳夫 教授 浜崎 幸雄

学位論文内容要旨

流行性肝炎患者分離病毒を用いて、マウス腹腔内接種により感染を起させ、その病毒攻撃2時間前及び2時間後の2群に分けて、9菌種の細菌(コレラ菌原型、原型K₇R、中間型、異型、チフス菌R型、S型、赤痢菌駒込E₃、大原R型S型)よりそれぞれ分離抽出した核酸、粗製核蛋白、蛋白、Boivin物質及びJulianelle物質、並びにモルモットの肝臓及び脳髓より分離抽出した粗核酸、多糖体を使用して感染に及ぼす影響を主として肝臓並びに肺臓の病理組織学的所見より観察した。感染促進作用のあったものはチフス菌より分離抽出した蛋白であり、抑制的効果を現わしたのはコレラ菌株に異型より抽出せる核酸に於いて著明であった。

以上の実験結果よりみて或る種の核酸系物質には感染阻止作用を有するものがあり、更に他種のものにつき研究するならば一層良好な成果を期待出来るものと思われる。

尚本実験に於ける感染阻止並びに促進作用機構は不明であった。

論文審査の結果の要旨

高橋学提出の「流行性肝炎ウイルス感染過程に及ぼす諸種抽出物質の影響について」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

ウイルス感染と細菌或は細菌性物質との相関々係については豚インフルエンザ症の発症要因に関する Shope の研究以来、向肝性ウイルス・インフルエンザウイルス、向神経性ウイルス等について可成り多くの実験的研究が行われた。その結果ウイルス感染阻止効果の見られる物質として細菌性多糖体が見出された成績が多い。本研究は3菌種（9菌株）から何れも同一方法で核酸、粗製核蛋白、Boivin 物質及び Julianelle 物質を抽出し、尚モルモット肝及び脳から核酸、多糖体を抽出して、是等の物質が流行性肝炎患者から分離された病毒のマウス感染に及ぼす影響を主として肝臓及び肺臓の病理組織学的所見より観察した。その結果感染阻止効果の見られたものは、コレラ菌抽出物質で、特に核酸及び粗核蛋白で Boivin 物質は多少その効果がみられたに過ぎない。なお型でみると異型菌のそれらの物質が他の菌型からの物に較べて多少その効果が大きであった。チフス菌からの抽出物質では核酸が多少阻止効果を示したに過ぎない。核蛋白は逆に促進作用を示した。赤痢菌の抽出核物質及びモルモットの肝、脾よりの物質はいずれも阻止及び促進効果を示すものは見られなかった。以上の如く供試病毒に対して菌の種類により又抽出物質の種類によって異なる影響を示す事を明らかにした。又之等の抽出物質の投与時期を種々に変えた実験の上からこれ等の阻止効果は単に初期感染の阻害によるものでないという事を明らかにした。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。